ふれあうナカマ 育む 見守る

学校は地域と共に歩んでいます。宮城県内の小中学校の様子、自慢できることを、児童・生徒が紹介します。

ふれあうナカマ 育む 見守る

八軒中

避難所で助け合う姿 今に

これがイチオシ

伝統の合唱 思い込めて

毎年１年生は「あすという日が」という歌を音楽の時間に練習します。今は合唱コンクールに向けて歌声が響いています。合唱コンクールでは全校生徒で歌うことが伝統になりつつあります。私たちは聞いてくださる皆さんの心に響くように取り組んでいます。

心を一つに思いを込めて歌うと、心が満たされて晴れやかな気持ちになります。歌詞に込められた「どんな苦しいことがあっても一生懸命生きることの大切さ」というメッセージを誇りを持って伝えていきたいと思います。

学校名　仙台市立八軒中学校
所在地　仙台市若林区南小泉八軒小路９の１
創　立　1947年
電　話　022(223)2336
校　長　八巻　竜一
生　徒　427人

被災者から感謝の桜

八軒中学校には大切にしている３本の桜があります。東日本大震災で被災した仙台市沿岸部の中野・荒浜地区の人たちからいただきました。私たちは植樹の経緯などを取材しました。

学校は地震後すぐ、避難所になりました。最初は地域の人を、翌日からは若林区役所の依頼で、中野・荒浜地区の人たちを受け入れました。

１週間後、吹奏楽・合唱部は避難している人たちを前に演奏しました。震災がなければ参加していた全国大会の出演時間に合わせました。

避難所生活は約1カ月になり、最後に中野・荒浜地区の人たちが植えたのが３本の桜。中野地区の片桐勝二さんは「（避難者）受け入れや演奏への感謝の思いを込めた」と教えてくれました。

私たちは避難所の様子を知りませんが、「互いに助け合う姿が印象に残っている」と当時の校長先生だった菅原敏彦さんが振り返っていました。

震災、被災した人たちの絆、桜の木のことは、風化させてはいけないと思っています。

私たちが大切にしている桜。左下の切り込みは桜の説明文

編集委員　安住倭（３年）千葉東子（２年）
指導教員　後藤亜津子

わが校 わがまち スクール通信

次回は
長町小（仙台市）
宮中（蔵王町）

図書館を通し「つながる」

気仙沼小

インドネシアと交流

気仙沼小学校のとなりには気仙沼図書館があります。東日本大震災で被災し、２０１８年３月31日に新しくなってオープンしました。

１階には児童センターのほか「ユドヨノ友好こども館」があります。インドネシアの支援を受けたことから、ユドヨノ前大統領にちなんで名付けられ、開館時には先輩たちが歌を披露しました。２階には一般図書など九つのエリアがあります。

天気の良い日は外で読書ができる「さくらテラス」も１階にあります。

気仙沼湾を一望できるすてきな図書館は、私たちの自慢です。

図書館は「つながる」がコンセプトで、私たちも２年前から、インドネシアの小学校と交流しています。行事や総合的な学習の時間に調べたことをオンラインで伝えたり、インドネシアの学校の様子を聞いたりしています。互いの生活の違いなどに驚いたり、良さを見つけたりできます。

今年もどんな交流になるのか今から楽しみ。私たちも「つながる」を大切にしていきたいです。

気仙沼図書館は私たちの自慢です。１階にはインドネシア前大統領にちなんだこども館があり、前大統領から寄せられたプレートもかかげられています

編集委員　伊東沙莉、佐々木まな、千葉陽色、鈴木翔太郎（６年）
指導教員　小野寺由佳

これがイチオシ

光の庭 思い出いっぱい

気仙沼小のおすすめの場所は、学校の中心にある光の庭です。光が入るとキラキラしてとてもきれいで、昇降口として使われた昔の建物もあります。校庭が使えない時には遊び場になります。１年生を迎える会が終わった後には、ここで１年生と楽しむなど、交流の場にもなります。

学習発表会の演技後には、学年ごとに集合写真を撮影するなど、私たちにとって思い出の場所でもあります。光の庭は、みんなの笑顔とたくさんの思い出が詰まった大切な場所です。

学校名　気仙沼市立気仙沼小学校
所在地　気仙沼市笹が陣３の１
創　立　1873年
電　話　0226(22)6966
校　長　佐藤　恭
児　童　195人